

氏名	品 川 克 至
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2555 号
学位授与の日付	平成 5 年 3 月 28 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Overexpression of Interleukin-2 Receptor α mRNA in Pulmonary Lymphocytes of Lung Cancer Patients Associated with Interstitial Pulmonary Shadow (びまん性間質性陰影を伴う肺癌患者の肺局所リンパ球における Interleukin-2 Receptor α mRNA 発現の検討)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

特発性間質性肺炎にはその経過中に高率に肺癌を合併することが知られており、肺における線維化病態は前癌病変の一つと考えられている。肺の線維化はマクロファージやリンパ球による持続的な炎症反応亢進が原因の一つと想定されている。

我々はリンパ球の活性化状態を検討するため、びまん性間質性陰影を伴う肺癌患者より気管支肺胞洗浄により得られた肺局所リンパ球での Interleukin 2 Receptor α chain の mRNA の発現を調べた。mRNA の検出には Reverse transcription-Polymerase chain reaction 法を用いた。びまん性間質性陰影を伴う肺癌患者の肺局所リンパ球では、6 例中 5 例に健康人 4 例に比べ Interleukin 2 Receptor α mRNA の高い発現が認められた。しかしながら末梢血リンパ球での発現は、健康人と同様にほとんど検出されなかった。従って肺局所ではリンパ球を介する炎症反応の亢進がうかがわれ、前癌病変とも考えられる肺線維化病態における肺局所リンパ球の活性化が明らかにされた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、びまん性間質性陰影を伴う肺癌患者の肺局所リンパ球における IL-2R α の

mRNA が亢進していることを RT-PCR 法を用いて明らかにしたものであり、線維化さらに引続いておこる癌病変の機序として活性化リンパ球の関与を示唆したものであり、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認めます。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。